

平成26年9月22日

自由民主党 磯

代表 成松 由紀夫 様

八代市議会自由民主党 磯

管外行政視察

復命書

視察期日 平成26年8月20日(水)～23日(金)

視察先 帯広市 (北海道)
札幌市 (北海道)
北見市 (北海道)

参加者

議員 成松 由紀夫



議員 田方 芳信



議員 橋本 幸一



議員 福嶋 安徳



議員 前川 样子



議員 村川 清則



調査事項

フードバレーとかちについて（帯広市）

1. 事業の概要

十勝地方は26万haの耕地を持ち、1,100%の食料自給率を誇っているが、加工という点では国内の他地域と比較し、比率が低かった。その十勝の強みである「農業・食」を中心に地域産業を振興し、まちづくりを行うための旗印として「フードバレーとかち」を推進している。

2. 事業実績（事業取り組み内容）

帯広市が「中心市宣言」を行い、管内19市町村で「十勝定住自立圏形成協定」を結び、農林漁業団体や商工業団体、大学・試験研究機関、金融機関、行政機関など41団体が参加する推進組織を設立し、販路拡大や新商品開発、農林漁業を成長産業にし、地域経済の活性化を図っている。

また、取り組みを効果的に進める環境づくりとして、国際戦略総合特区や、バイオマス産業都市、地域活性化モデルケースなどの国の支援施策をツールとして活用している。

実績としては、市場調査を兼ねたアンテナショップを秋葉原に設置運営したり、ロゴマークを活用して地産地消を促進、またレシピ集を作成しネットでも配信している。また、東アジアを中心とした海外への展開を支援している。

3. 市民からの評価

当初は市民の反応も疑心暗鬼だったようだが、米沢市長のリーダーシップの下、軌道に乗っているようだ。

4. 今後の課題

農林漁業を成長産業にするため、ICT等の先進技術を活用した生産技術を高度化することや、産地一体となった安全・安心システムの確立（十勝GAP宣言など）、また企業と連携した新規作物導入の研究、海外展開に向けた基盤整備などが今後の課題となる。

調査事項

札幌マラソンについて（札幌市）

1. 大会実施に伴う運営形態

札幌マラソン大会は、昭和51年に「健康都市さっぽろ」をスローガンに市民の健康・体力づくりを目的にスタートし、現在札幌市、札幌陸上競技協会、札幌市スポーツ推進委員会、読売新聞北海道支社、報知新聞社、さっぽろ健康スポーツ財団の6団体により構成される実行委員会によって運営されている。

2. 大会の特色及び効果

豊平川の河川敷や整然と建ち並ぶ都心部の街並みを駆け抜ける、まさに自然と都市が調和した札幌に相応しいコース設定となっている。大会のメイン種目でもあるハーフマラソンや10kmは、日本陸上競技連盟公認コースであり、また幼児から高齢者まで幅広い年代に応じた種目（5km、3km、2km）を設定し、誰もが参加できる大会として位置付けられている。

これらにより、日ごろの練習成果を発揮する場の提供、体力・健康づくりに大きく寄与している。

また、実業団、陸上自衛隊、箱根駅伝シード校（10校）、全日本大学女子駅伝上位校（3校）から選手を招待し、大会の活性化を図っている。

3. 市民からの評価

札幌市民はもとより全国からランナーが集う北日本最大の市民ハーフマラソン大会として高い評価を得ている。ちなみに平成25年度はエントリー数14,276名で、うち札幌市民は11,164名であった。

4. 行政からの支援（運営に伴うかかわり）

補助金として、札幌市から1,800万円が交付されている。また、大会当日における運営スタッフとして15名が各係の職員として従事している。ちなみにボランティア総数は1,200～1,300名が必要ということである。

5. 今後の課題

公道を使用することから、交通規制を実施しなければならない。長時間に及ぶため、札幌市民や道路を使用するすべての人々の理解を得る必要があり、北海道警察をはじめ関係機関との連携を密に図っていくことが課題となっている。

調査事項

共生型施設整備事業について（北見市）

1. 事業の概要

- ・高齢者が持つ豊富な経験と知識、技能を地域の福祉活動に活かすため、ボランティア講座などを開催し、地域活動への積極的な参加を働きかける。
- ・心のバリアをなくすため、日常の中で子どもや高齢者、障がい者が交流し、触れ合う場が必要である。さまざまな交流、体験を通じ、市民の相互理解、人権意識の啓発を図る。
- ・共生型施設は、「障がい者・高齢者・子ども」に対し、一体的にサービスを行う事業の拠点となるものであり、施設整備に対し3000万円を限度に、国の「地域介護・福祉空間整備等交付金」の対象となる。
また、初年度に必要な備品購入費等の経費に対し、200万円を限度に、国の「地域介護・福祉空間推進交付金」が交付される。

2. 事業の特色

共生型施設は、「障がい者、高齢者、子ども」に対し、一体的にサービスを行う事業の拠点となるものであり、障がい者のみのサービスは対象とならない。必ず高齢者に関するサービスを一体的に行う必要がある。高齢者（高齢障がい者を含む）を対象としていれば、あわせて子どもなどを対象とするサービスを実施することも可能である。

3. 事業に対する市民からの評価

8事業所が展開するなど概ね好評であるが、運営費に対する補助はないので、「経営」という面では厳しいようである。

4. 今後の課題

万が一事業所が倒産したら、補助金は市が国に返済しなければならない。
したがって当然厳密に審査するが、監査権限がないこと、またアパート経営ではないので、これ以上ふやす必要があるかという審査の策定も必要になる。

)

調査事項

武道館建設事業について（北見市）

1. 武道館建設に至るまでの経緯

平成9年度から毎年募金活動をするなど、市民からの要望も強かったようである。

8種の武道関係団体により構成される北見市武道振興協議会からの専門的見地による提言やプロポーザル選定委員会における技術提案の具現化等にかかわる意見を建築設計に反映させるとともに、必要な調査や比較検討・検証を行いながら進めた。

)

2. 武道館の特色

- ・東陵公園自由広場空間に配慮（建設位置の決定）
- ・稽古に集中して励むことができる機能（各道場の独立性に配慮）
- ・武道に触れる機会の提供と市民交流の場（「武道のひろば」の設置）
- ・利用者の安全・不測の事態に対応（救護室及び救急動線の確保）
- ・日本古来の伝統文化修養の場（研修室の設置）
- ・自然光を取り入れた採光等（太陽光発電設備及び木質ペレットストーブの導入）

3. 市民からの評価

地域のフラダンスグループも利用しているし、武道を志す若者も少しずつだが増加しているようである。

なお、維持管理費は年間2,200万円を予想していたが、管理委託（武道館単独）により1,700万円に抑えることができている。

4. 今後の課題

武道館を体育・スポーツ並びに生涯学習機能を有する社会教育拠点施設と位置付け、次代を担う青少年の健全育成や、心と技を伝承する日本古来の伝統文化を広く後世へ継承する施設運営を目指していく。

会派 自由民主党（礎・絆・和） 行政視察所見

議員名【成松由紀夫】

◆視察日：平成26年8月20日（水）

◆視察先：北海道帯広市

◆調査項目：フードパレーとかちについて

「フードパレーとかち」のコンцепトは自らの意見と責任に基づいたまちづくりの推進として、土勝の強みである「農業・食」を中心と

地域産業を振興しますづくりを行ったための旗印である

「フードパレーとかち」推進の戦略は次の戦略からだ、つまり

オーレ土勝への合意づくり、取り組みの体制づくり、取り組みの主

づくり、取り組みを効果的に進める環境づくりがあるが

推進協議会構成団体がしっかりとしていると感じた。昨年の

主な活動の中で官民一体となり東アジアを中心とした海外への

展開支援が効果的だ、たとうである

土勝人アレンジ推進支援事業が20代～40代の個人を対象に土勝

にゆかりのある方からの1万円の寄付金から(2年連続)とりこんでいるが

土勝人アレンジ推進支援事業として成果を出(?)

八三

◆視察日：平成26年8月21日（木）

◆視察先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

・マラソン大会実施に伴う運営形態として札幌マラソン大会実行委員会専門委員会が組織されましたが、事務局にさして

健康スポーツ財團があり、財務、広報企画、運営の各委員会があり、部会的に整備、救護救急、競技、輸送となる。

・効果として幼児からお年寄りまで幅広い年代層へ応じたコース設定をし誰もが参加でき、体力・健康づくりに寄与し、札幌市民11164名が参加し、エントリー数14276名で高い評価を得た。
(37才以上6千名参加)

・整備は丁寧で、860人必要有る為、22社を丁寧に対応し、救急救護の消防署12箇所を12箇所で対応している

・課題としてマラソン大会は公道を使用する為、交通規制を実施しなければいけない、より市民全ての人への理解を得て、警察との連携と密に図り、うまくつきあいかねば毎年の課題をしっかりこなしていくことが重要、これに尽す。（所管の市内署との調整も大事）

◆視察日：平成26年8月22日（金）

◆視察先：北海道北見市

◆調査項目：共生型施設整備事業について

・共生型施設は、「障がい者・高齢者・子ども」に対する、一体的のサービスを行う事業の拠点となりるものであり、施設整備にあたり3000万円を限度に、国の「地域介護・福祉空間整備等交付金」の対象となるものである。（両面で200万円交付）

・ここでは特養の待機者が700名程度。

・高齢者や障がい者や学生や地域住民が交流し、相互理解を深め、福祉制度を利用しながら自由を形えてくる共生型の住まいや、就労の場の提供、コミニティサロンの場の提供など、地域交流サポートサービスを一体的に提供する共生型サービスの活動拠点を整備している。

・課題①：監査権限が及ばない、為、事業所とのやり取りが見抜きと不容易、アパート経営等、なかなか問題が多い。

◆視察日：平成26年8月22日（金）

◆視察先：北海道北見市

◆調査項目：武道館建設事業について

(総工費12億2千30万)

・H19年の要望書からはじまり、H23年の企画特例債をあげる。

・特色として武道館市民がふれられた場として武道館の立場を施設の中に入りこむ、また事とけいちに集中する独立性の高い機能を重視したこと。

・市民からの評価はこれまであるが、アグランス等利用をいたもう、市民の理解を深めること。

・今後の課題として1700万円の維持管理費で当初2200万円

試算1700万円指定管理委託料で入った。(武道館のみ)

駐車場500台収容であるが、大会が重なるといつも埋まっている為、駐車料金を上げた。大学や実業団、会宿等の利用も高めた。

建設費用7千円から3角度から検証している。

調査事項 (帯広市)

因方

○ フードバレーとかちについて

1 事業の概要

十勝の強みである農業・食を中心に地域産業を振興し、町づくりを行うための旗印

2 事業実績 (事業取り組み内容)

地域での加工による高付加価値化が実現

3 市民からの評価

高い衛生基準のクリア

体に良いこと、美味しいこと、新鮮であること

4 今後の課題

農林漁業を成長産業 (基本価値)

十勝の魅力を売り込む (需要創出)

食の価値を創出する (付加価値)

海外への販路拡大の取組

調査事項（北見市）

○ 共生型施設整備事業について

1 事業の概要

地域で支えあい高齢者が安心していきいきと暮らせる町を目指している

2 事業の特色

障害者・高齢者・子供に対し一体的にサービスを行う事業の拠点となるものであり、障害者のみのサービスは対象にならない、必ず高齢者に関するサービスを一体的に行う必要があります

3 今後の課題

国の交付金をどのようにもつてくるか

調査事項（北見市）

○ 武道館建設事業について

1 武道館建設に至るまでの経緯

平成25年10月19日、初の総合武道館施設として開館し建設にあたつては、8種の武道関係団体により構成されている。次代を担う青少年の健全育成や心と技を伝承する日本古来の伝統文化を広く後世に継承する施設運営をしていかなければならぬ

2 武道館の特色

武道に触れる機会の提供と市民交流の場

3 市民からの評価

まだ1年経っていないので評価できない

4 今後の課題

効率的な施設を目指し必要な調査や比較検討を行いながら進めていかなければならない

会派 自由民主党（礎・絆・和） 行政視察所見

議員名【鶴本章一】

◆視察日：平成26年8月20日（水）

◆視察先：北海道帯広市

◆調査項目：フードパレーとかちについて

前回 視察した時に 大玉の進歩がついていました。
中でも定住自立圏形成協定の中の一つの事業として、フードパレー
とかちを組み入れ 帯広市を中心とした、オールとかちの発想で
フードパレーを進めている事が 海外既含めた外へ向かうの
發信力が大玉の力とついています。本市も今後 定住自立圏を進める
計画があるのか、オールハ代から更にオール県南の発想でフードパレー
を進める発想が必要と思われる。フードパレーとかちの課題
は食料品製造端比率を今後高めよう必要があるようで
今後本市においても、この比率を高め また又海外
へのエーケッティングの積極的取り組みが重要
と思われます

◆視察日：平成26年8月21日（木）

◆視察先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

昭和51年から市民の健康・体力つくりを目的にスタート

1. 現在に至っている。11マラソンと10kmが日本陸連公認コースで他に真駒内公園路等の園内で5km、3km、2kmのコースが設定されている。一般財团法人さっぽろ健康マラソン財団が主とつて実施されているが、課題として(1)道路使用許可の点で警察との協議に苦慮しているようである。本市の課題と同じ感がある。又札幌マラソンの目的が市民の健康増進を目的としているが、参加者の大部分が札幌市民である本市にて検討するには目的が競技目的か健康目的か？コースの設置が可能か？警察の許可はどうか？の点で課題か？すくあると思われる。

- ◆視察日：平成26年8月22日（金）
- ◆視察先：北海道北見市
- ◆調査項目：共生型施設整備事業について

高齢者施設と障害者施設、子供用施設を一体的に行
なうべく行う共生型の施設で、国の補助事業であるが、
本市では取り組みた1つ1つニーウルフ施設
である。平成20年から平成24年にかけて施設が
整備されていながら、経営的に厳しい施設ある。
施設が倒産した場合は市が国への補助金
返還義務が生じる。実施にあたっては、計画
内容の精査、園域での場所決定等が重要に
なる。本市での取り組みた1つ1つを見た
更なる検討と今後の他の自治体の動向を
見えて玉と思われる。

◆視察日：平成26年8月22日（金）

◆視察先：北海道北見市

◆調査項目：武道館建設事業について

25万m²の東陵公園自由広場に平成25年に竣工
武道施設として建設工事は、柔道、剣道、相撲、弓道、
合気道、小林寺拳法、空手、居合道等の種目が行わ
れている。総額、12億2千万円で財源、と171万
10億8千万円が合併特例債で、他に、神助金と基金
一般財源である。施設内で注目したのは、武道のU317
で、武道の練習風景がたたかれており、ガラス越しに見学
出来る設計で開放的雰囲気である。
市でとりまとめた提案を取り入れたプロポーザル方式に
する結果だと思われる。本事にみるところ、また、これから
であるが、スポーツ施設の、エリア代も考慮に入
れた場所の選定、財源の問題が今後大きな
課題と思う。

会派 自由民主党(礎・絆・和) 行政視察所見

議員名【福嶋安徳】

◆視察日: 平成26年8月20日(水)

◆視察先: 北海道帯広市

◆調査項目: フードバレーとかちについて

十勝 $10,831.24 \text{ km}^2$ (-市16町2村) 人口 $349,384$ 人
帯広市 818.94 km^2 $\rightarrow 168,594$ 人

定住自立圏構想により十勝全体で定住自立圏に取り組む。それに合わせてフードバレーを推進(食や農林漁業を柱として地域産業政策を展開し、地域の発展につなげて)いこうとするものです。

十勝全体の事業として取り組む
十勝を食に関連するものが集まる場所ということでフードバレーとからしてスタート。全体を見据えた町づくり始まる。
2000時間を超える日照、時間を活用し、農業、食を中心とした地域産業を進興し、自給率100%を活かしていく。
約26万ヘクタールの耕地で全国トップクラスの生産量を貯蔵する。

○ 取り組み
オール十勝への合意づくり、大きい方が情報の発信に有利
十勝定住自立圏形成協定、平成23年7月、19市町村の議会で審議決議(中心市と周辺市町村が生活実態や将来像を基に協定を結ぶことにより自ら圏域を決定する)
管内41団体が参加する推進組織を設立

○ 平成24年3月基本的な方向性を整理

国際戦略統合特区指定

ハーバーステーション都市認定、豊富な地域資源を活用し、工芸品や自給率可能なまちづくりに取り組む
農業を軸とした、食と観光と健康の奥運産業を国の地域活性化モデルケースを達成する。

十勝産食材の販路拡大、ブランド化を促進する。

◆視察日：平成26年8月21日（木）

◆視察先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

1. 大会実施に伴う運営形態

札幌市、札幌陸上競技協会、札幌市スポーツ推進委員会、読売新聞北海道支社、報知新聞社、さっぽろ健康スポーツ財団、札幌マラソン大会実行委員会専門委員会を組織し、大会運営を実施している。

2. 大会の特色及び効果

豊平川の河川敷や整備された並木と建ち並ぶ都心部の街並みを駆け抜け、また自然と都市が調和した札幌に相応しいコース設定となっている。

大会のメイン種目であるハーフマラソン、や10kmは、日本陸上競技連盟公認コースであり、幼児から高齢者まで幅広い年代に応じた種目(5km、3km、2km)を設定し誰もが参加できることである。

3. 市民からの評価

上記大会の特色から、札幌市民は、より全国からランナーが集り北日本最大の市民ハーフマラソン大会として高い評価を得ている。エントリ数14,276名、内札幌市民 11,164名、(78.2%)

4. 行政からの支援

札幌市補助金 17,960,000円

当期収入合計 75,502,000円

支出合計 83,657,027円、收支差額△8,011,684円

5. 今後の課題

マラソン大会は、公道を使用することから交通規制が必要となる、長時間にはため市民や道路を使用する人に協力が必要である、警察や関係機関との連携を密に図ることが重要である。

- ◆視察日：平成26年8月22日（金）
- ◆視察先：北海道北見市
- ◆調査項目：共生型施設整備事業について

北見市は、北海道の東部に位置し、人口124,000人のオホーツク圏最大の都市。面積1,427.56km²で、東京都の約65%、北海道では第1位、全国では第4位の広さです。

高齢者65歳以上。2025年…3,657万人

2042年…3,818万人

75歳以上高齢者は、全人口の割合は2055年には、25%を超える見込みである。

介護保険制度の法改正に伴い高齢者を対象とした事業を進めます。

1. 介護予防と健康づくりを推進する。

2. 地域全体で高齢者を支援する。

3. 高齢者の経験と知り識を生かして積極的な社会参加を進めます。

4. 高齢者の権利を守る支援推進。

5. 認知症の生活支援

6. 生活支援と住まいの整備

住み慣れた地域で生活できる地域包括ケアの取組
グループホームを315戸を建設し、高齢者と子どもが生活
できる施設を提供しています。月額1万5千円。

40歳～64歳までの負担を軽減につなげたいと考えています。

◆視察日：平成26年8月22日（金）

◆視察先：北海道北見市

◆調査項目：武道館建設事業について

JR北見駅から北に2km程の緑豊かな東陵公園がある。その公園は武道会館の敷地の両脇に野球場、陸上競技場があり、北側にテニスコート、南側に北海道立北見体育センターがあり広大な公園である。公園は都市空間における憩いや癒しの機能を有する都市公園としてスポーツを楽しめ、交流できる環境づくりを進める総合運動公園として市民の皆様に広く利用されています。

①各種武道の日常の鍛錬の場として活動拠点を一施設に集約し、武道を文化振興の面から広く発信するとともに後世へ継承する生涯学習の拠点施設として建設を計画。

ユニバーサルデザイン、ライクサイクルコストの観点をはじめ建設物の木質化の推進や、地元の建設資材等の調達等、地域経済収束などを基にした建築構造、及び建築設備のあり方について、8種の武道関係団体により構成され、北見市武道振興協議会による、武道に関する専門的見地からの提言やプロポーザン選定委員会での技術提案の具現化より効果的な施設を目指す

敷地面積……約9,000m²

建築面積……約3,200m²

延床面積……約3,310m²

建設費……1,226.904千円

指定管理委託料……1,700万円

総特管理料……2,200万円程度

内部は、武道のひろば（エントラシスホール）を中心とし両側の武道大会を見学できる。

心技・体を伝承・伝統文化を次世代に継承できる施設を目指して頂きたい

会派 自由民主党（礎・絆・和） 行政視察所見

議員名【前川祥子】

◆視察日：平成26年8月20日（水）

◆視察先：北海道帯広市

◆調査項目：フードバーとかちについて

地域を取り巻く環境、なかち「経済のグローバル化」アレア諸国、
経済発展、「少子高齢社会の到来」の中、十勝の強みである「農業
・食」を中心に地域産業を振興し、おづくりを行つとして
隣接17市町村がオール十勝への合意形成を目指す「フードバー
とかち」の体制がつくられて、取り組みを効果的に進める
ために、国際戦略総合特区、ハイテク産業都市、地域
活性化モデルケースなどをツールとして活用し、環境づくりを進める。
また「フードバーとかち推進協議会構成団体」に農林漁業、
商業、大学、試験研究機関、金融機関、行政と大変幅広く、
このことに於いても「十勝全体をまとめて上で強力な組織
であります。

これまでの事業実績として、①東アレアを中心とした海外への
販路拡大や觀光の発信 ②十勝産農産物、加工品の販路
拡大 ③スーパーと連携して地産地消の促進、④JR山手線
AIRDO、JAL等を使い、広報活動や情報発信等が
あり、成果は着実に上がっているので、市民の理解は広まつた
ところです。

と考えられ。

今後の課題としては、十勝の魅力をもと売り込むために、

農業を体感する観光、健康と運動との食の売り込み。

高速道路、空港、港湾などの活用につかなければ。

また農林漁業のこれから、後継者育成や少子化の中大きな課題を考える。

◆視察日：平成26年8月21日（木）

◆視察先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

この大会は札幌マラソン大会実行委員会専門委員会を組織し、大会運営を実施します。都心部であるが自然と都市が調和した札幌の街並み駆け抜けに相応しいコース設定を行っています。

このマラソンの事業自体は経済効果を目的とすり市民の健康への意識向上と健康増進を目的とすり、市民の体力、健康づくりに大きく寄与します。

海外からの一般参加は多い。海外の姉妹都市へ参加、の招待でいます。エントリーナンバー14000人以上で、内78%は札幌市民であり、(主に自家用車で現地入り)であります。駐車場は充分あります。また宿泊施設も2万人泊まれるという余裕があります。行政からの支援は補助金の交付があり、当日の運営スタッフは15名。

今後の課題としては、大会は公道を使用し、長時間に及ぶため交通規制の問題が大きい。このため、札幌市民の理解と警察と関係機関との連携を密に図っていくことが必要です。

◆視察日：平成26年8月22日（金）

◆視察先：北海道北見市

◆調査項目：共生型施設整備事業について

共生型施設は「障がい者、高齢者、子ども」に対して、一体的にサービス等を行う事業の拠点に開拓する施設整備で、障がい者のみのサービスは対象とならず、必ず高齢者に開拓サービスを一体的に行う必要がある。高齢者（高齢障がい者を含む）を対象としたものであります。併せて、子どもなどを対象としたサービスを実施することも可能である。施設整備は計1234万円を限度に、国が「地域介護、福祉空間整備等交付金」の対象となります。また事業立ち上げの初年度には必要な備品購入等の経費は計1本年度は2百万円を限度に国から交付されます。共生型の施設は現在8箇所で今後は増やす計画であります。施設自體は監査が必要であると共に、今後の施設運営の行政との注視（この必要性）は経営破綻の予兆で、施設整備の国からの交付金34万円（行政が返還）な付与するので、支払は大きい。

また共生型施設は本市にてまだ無いため今後検討する必要性を感じます。

◆視察日：平成26年8月22日（金）

◆視察先：北海道北見市

◆調査項目：武道館建設事業について

24.3haの広大な公園の中に運動施設を集約地。

3ha一つに武道館が建設されました。

基本設計の策定にあたって重要な項目は

①都市空間における緑地と2ha憩いの機能と

有様公園との調和

②安全かつ継続的な日常の鍛錬を可能とする武道館

と2ha施設機能及び配置

③人口減少・高齢化で維持管理が容易な建築物の
本質化を推進し、当地域からの建設資材等の調達等、
地域経済効果などを勘案

現在武道関係の合宿に最適化を考究しました。

市の維持管理費は毎年17百万円程度ですが現在、
収入と見合わせやすい運営を考究しています。

(か)今後の動向等を考究すると不安な点は
な事であった。

会派 自由民主党（礎・絆・和） 行政視察所見

議員名【 松川清則】

◆視察日：平成26年8月20日（水）

◆視察先：北海道帯広市

◆調査項目：フードバレーとかちについて

域内19市町村で「十勝定住自立圏形成協定」を結び、帯広市が中心市宣言を行ない、周辺市町村と相互連携を図っている。

元々十勝地方は、小麦馬鈴薯・小豆・こん菜など1,100%の食料自給率を誇る地域であり、八代地方とは条件は異なるが、十勝GAP（農業生産工程管理宣言）を出したり、ロゴマークを作り、活用する事により地産地消に活用している点、またフードバレー推進協議会の取り組みなども参考になる。

市民の反応が、当初は疑心暗鬼だった様だが、米沢市長の強いリーダーシップの下、現在では軌道に乗っている様である。

◆視察日：平成26年8月21日（木）

◆視察先：北海道札幌市

◆調査項目：札幌マラソンについて

- ・39回目を数える伝統のある大会である。
- ・体育協会から分立した「さっぽろ健康スポーツ財団」が主体的に運営している。（指定管理）
- ・大会の活性化を目的に、実業団・陸上自衛隊・箱根駅伝シード校・全日本大学女子駅伝上位校から選手を招待しているとの事である。
- ・純粹に市民の健康増進が目的であり、経済効果は全く期待していないようだ。
- ・市からの助成金は1,800万円程度であり、ボランティアの数はのべ1200～1300人でTシャツや帽子・クオカード・弁当を支給しているとの事である。
- ・コースや、参加人数など、警察との折衝では微妙な問題あり、難かしい様だ。

- ◆視察日：平成26年8月22日（金）
- ◆視察先：北海道北見市
- ◆調査項目：共生型施設整備事業について

・共生型施設は、「障がい者・高齢者・子ども」に対し、一併的に行う事業の拠点となるものであり、施設整備に当たり3千万円を限度に、国の「地域介護・福祉空間整備等交付金」の対象となるものである。また立ち上げの初年度に必要な備品購入費に対し、2百万円を限度に「地域介護・福祉空間推進交付金」が交付される。

・但し、運営費への補助はない。万が一その事業者が倒産したら、補助金は市か国に返済しなければならない。従って、当然厳密に審査するが監査する権限はない。

・アパート経営ではないので、これ以上増やす必要があるかという審査の策定も必要になる。
・ちなみに北見市では現在8事業所が展開中である。

◆視察日：平成26年8月22日（金）

◆視察先：北海道北見市

◆調査項目：武道館建設事業について

・平成9年度から22年度まで募金活動を続け、

東陵公園中央部の自由広場内に、総合武道施設として、合併特例債により建設している。

・第2種中高層住居専用地域で、 $3,000\text{m}^3$ 以下しか許可されないので建築審査会の同意で延床面積 $3,347\text{m}^2$ を許可している。

・維持管理費は当初、年間2,200万円程度予想していたが、指定管理（武道館単独）により1,700万円に抑える事が出来ている。

・生涯学習機能を有する社会教育拠点施設と位置づけ、武道だけではなく地域の「ラタンスク」ループも利用している。

・効果として、武道を志す若者が少しづつだが増加している様だ。

平成27年3月16日

自由民主党 硏

代表 成松 由紀夫 様

八代市議会自由民主党 硏

管外行政視察

復命書

視察期日 平成27年2月18日(水)～20日(金)

視察先 大東市 (大阪府)
東京都 (東京都)
小牧市 (愛知県)

参加者

議員 成松 由紀夫 
議員 橋本 幸一 
議員 福嶋 安徳 
議員 前川 祥子 
議員 村川 清則 

調査事項

指定管理者導入後の市立図書館運営状況について（大東市）

1. 業者選定の経緯

募集要項の請求は6団体で、そのうち5団体が現場説明会に参加し、さらにそのうちの1団体が申請し、教育長や指定管理関係部長、その他社会教育関係者により構成する選定審査委員会にて審査を実施した。

施設の管理・運営に対する基本的な考え方や利用者サービス向上の方策など27項目に対する評価を、A：優れている、B：安定している、C：不安がある（選定基準：全項目がAまたはB評価）の3段階の評価にて審査し、その結果（株）図書館流通センターが候補者となり、大東市議会にて議決され、正式に決定した。

2. 指定管理者導入の効果

人件費の削減や開館時間の延長、休館日の削減、カラーコピーサービス開始などが上げられる。公募時に提案された新サービスの実施や、随時新しい事業、イベントの提案があり、市内子育て関連施設への貸出パック開始や、オンライン音楽図書館ナクソス・ミュージック・ライブラリーの提供など、民間ならではのノウハウを生かした図書館サービスの拡充がなされている。

3. 市民からの評価

導入前は、個人情報漏えいの危惧や、無料原則の崩壊などの不信感により、読書サークル合同による直営を求める要望が提出されたが、教育委員会が責任をもって事業者を監督する方針を伝え、一定の理解を得るにいたった。

導入後、当該サークルや他の団体、市民からの苦情、反対はなかった。概ね利用者に好評であり、応対やレファレンスも含めて批判的な意見は皆無に近い。

4. 今後の課題

指定管理者と市の連携についても、定期的な事業報告や会議を実施する以外に、施設内で問題が生じた際は、綿密に連絡し、対応するなど、円滑に調整できている。

今後の課題としては、市と指定管理者が力を合わせて、スマートフォンなど新しい端末の普及に伴う世の中の活字離れ、情報システムの急速な進化など、めまぐるしい社会の情報化に対応した公立図書館のあり方を確立していくことが上げられる。

調査事項

これからの墓地行政のあり方について（東京都）

1. 施設の概要

小平霊園は、昭和23年に開園した都立の霊園で、新宿から西へ23kmの地点、西部新宿線と青梅街道に挟まれた住宅地の中に建設された公園墓地である。

- ・総面積：653.545m²
- ・行政区域：東村山市、小平市、東久留米市
- ・墓所数：
 - 一般埋蔵施設；33, 140カ所
 - 芝生埋蔵施設；7, 268カ所
 - 壁型埋蔵施設；1, 190カ所
 - 合葬埋蔵施設；2カ所
 - 樹林型合葬埋蔵施設；1カ所
 - 樹木型合葬埋蔵施設；1カ所
 - 小型芝生埋蔵施設；500カ所

2. 樹林墓地（合葬式）の考え方及び利用状況

東京都は、平成20年2月の東京都公園審議会答申「都立霊園における新たな墓所の供給と管理について」を受け、既存の都立霊園を活用しながら、墓地に対する都民ニーズの多様化に応えるため、新たな形式である「樹林墓地」の整備を行ってきた。

樹林墓地は、死後は安らかに自然に還りたいという多くの都民の思いに応えられるよう、樹林の下に共同埋蔵施設を設け、直接土に触れる形で遺骨を埋蔵するもので面積834m²で埋蔵予定数は10,700体である。

都に3年以上在住する都民というのが条件であり、基本的に無宗教が原則である。また、生前の申し込みも可能である。

使用許可の際に、遺骨1体につき13万1000円、粉状遺骨（火葬した遺骨を粉状にしたもの）1体4万3000円の使用料を支払う。毎年の管理料は不要である。毎年5月4日に管理事務所が献花式を行っている。

3. 住民の評価

平成24年に第1回目の募集をしたところ、都立初の樹林葬ということもあり、メディアでも大きく取り上げられ、初年度500体の募集に対し、16.3倍の応募が殺到した。

調査事項

新庁舎建設について（小牧市）

1. 庁舎建設に至る経緯

昭和63年の現東庁舎建設時には、第2期工事も含めた計画でコンペを実施し、第1期工事として現東庁舎を建設したが、第2期工事は未定であった。

平成8年度に旧本庁舎の耐震診断を実施した結果、耐震性に問題があることから、平成13年頃から旧本庁舎の建て替えの議論が本格的に浮上し始めた。「庁舎建設市民懇話会」や「庁舎建設委員会」などが発足し、建設の是非から建設地の選定も含めた議論が数年にわたりなされた。

2. 新庁舎建設地の選定状況

当初、交通の便その他の理由で小牧駅前も考えられたが、平成16年に庁舎建設委員会から、新庁舎の建設位置に関する報告書が議長に提出され、定例会において報告された結果、新庁舎を現在の位置に建設することとなった。

3. 新庁舎完成後の効果、市民からの評価

番号表示呼出サービスの導入やフロアマネージャーの配置により、円滑な案内ができるが、発券機の該当ボタンの押し間違いによるトラブルが稀に発生している。

また、特に市民からの反応や評価は聞いていないとのことである。

4. 今後の課題

1階の執務エリアの狭隘化が問題となっている。

平成26年度の行政組織改編以後、ハイカウンターとローカウンターの位置関係や窓口の数の追加など各課から要望が上がっている。

また、空間が広く空調の調整が難しいため、空調運転の運用方法や運用にかかる管理規程の見直しが必要である。

自由民主党会派（礎・絆・和）行政視察所見

委員名【成松由紀夫】

- ◆視察日：平成27年2月18日（水）
- ◆視察先：大阪府大東市
- ◆調査項目：指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

○直営よりも多少は職員数はへったが、そんなに変動はない。

八代市も民間ならではのサービス充実に努め、指定管理者制度ならではの効果を上げていくべき

- ◆視察日：平成27年2月19日（木）
- ◆視察先：東京都（都立小平霊園）
- ◆調査項目：これからの墓地行政のあり方について

。生前申込件（2体まで）が都立初と17倍を超える
は16倍、粉骨で4300円、遺骨13,000円で約3倍
であるが、将来的に八代市もこういったやり方をも考
えた時期だと考えた。

◆視察日：平成27年2月20日（金）

◆視察先：愛知県小牧市

◆調査項目：新庁舎建設について

。新庁舎基本構想、パブリックコメント、基本設計プロポーザル

等、小牧市では、この都度約10年かけた、しかし幅広く

多面的に慎重に議論を重ね建設されてますが、八代

市では合併特例債等の向問題があり、スピード感が求め

られるが、急ぎながらもしっかりと了論と多面的な

検討が必要

自由民主党会派（礎・絆・和）行政視察所見

委員名【橋本章一】

◆視察日：平成27年2月18日（水）

◆視察先：大阪府大東市

◆調査項目：指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

大東市には、中央図書館、西部図書館、東部図書館があり、一括して指定管理されている。指定管理を受けていける会社は、全国的な規模で事業を展開している会社で、図書館運営に専門的なノウハウを持つからであろう。指定管理を受けてから初年度から利用者のアンケートによると満足度は「高」(87%)である。又民間からのサービスを実施されており、本市での図書館の指定管理についてもサービスの充実という点で大いに期待が持てると思われる。又運営にあたっては、行政と常に情報の共有が必要であると思われる。

◆視察日：平成27年2月19日（木）

◆視察先：東京都（都立小平霊園）

◆調査項目：これから墓地行政のあり方について

都立小平霊園は、65haにもわたり、広大な公園風の霊園で都の6の霊園を一括して指定管理で運営されています。これから墓地政策として、樹杯墓地・樹木墓地と称して造られており、小エーア面積に樹杯墓地12.1万
人分位、樹木墓地12.2500人程度と、1人
の墓石を備えた車両集団で埋葬される車両今後問題と
される無縫墓石の解消にも取り組んでいます。過疎地における
限界集落、消滅都市等における中、墓地の
荒廃対策として検討すべき方法と思われる。

自由民主党会派（礎・絆・和）行政視察所見

委員名【福嶋安徳】

◆視察日：平成27年2月18日（水）

◆視察先：大阪府大東市

◆調査項目：指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

大阪市の東部に位置する、野崎まいりの歌で知られる、市民や

地元大学との協働で進める市民文化の育成を目指す

人口124,437人、面積東西7.5km南北4.1km、18.27km²

時代はまさに高度経済成長期を頂点、人口増加と都市化など

市立図書館運営状況

中央図書館、昭和62年4月1日、直営にて運営、4,904m²

西部図書館、平成18年4月1日、新設、1,274m²

東部図書館、平成24年4月、1,158m²

H14年、行財政改革による、積極的に民間の活力を導入

当初、建設運営管理を、PFI方式を検討していたが規模が大きいため企業効率が見込めないと判断され、建設をPFIに近い手法として設計施工一括発注方式による建設、その後、地方自治法改正と重なり指定管理者制度を導入。

平成24年12月議会、議決、平成25年4月1日、業務開始

指定管理者導入時は、直営を求める要望が出されたり議会、団体等から導入に対して大丈夫なのか、不景があった、理由として、個人情報漏洩の危惧や、無料原則の崩壊などの不信感が強かった。

教育委員会が責任を持って事業者を監督する方針を伝えることにより理解を得られた。サークルをはじめ、他の団体・市民からの苦情

反対はありませんでした。利用者にも好評で図書館運営が出来ている。

今後、市と指定管理者が力を合わせ、スマートフォン・タブレットなど新しい端末の普及に伴う世の中の活字離れ、情報システムの急速な進化など、めまぐるしい社会の情報化に対応した公立図書館

の在り方を望まれます。

- ◆視察日：平成27年2月19日（木）
- ◆視察先：東京都（都立小平霊園）
- ◆調査項目：これから墓地行政のあり方について

小平霊園は昭和23年5月に開園した都立の霊園で住宅地の中の霊園である。

面積、東村山市 35万4千322m²

小平市 20万1千189m²

東久留米市 9万2千432m²

総面積 65万3千545.40m²

合計8霊園を管理する。公益財団法人東京都公園協会が指定管理者として運営している。

死後は安らかに自然に還りたい、という多くの都民の皆様の要望に応える新たな墓地

樹林墓地、一 落葉樹林の下に共同埋蔵施設を設け、直接土に触れる形で遺骨を埋蔵する。

面積 834m² 埋葬予定約10,700体

樹木墓地、シンボルとなる樹木の周辺に遺骨を個別に埋蔵する。

一つの墓に多くの遺骨を一緒に埋蔵する

合葬式墓地 1.個人(1体用)又は夫婦、親子、兄弟姉妹(2体用、3体用)
2.生前に申し込むこともでき遺骨での申し込みもできる。

3.墓を継いでくれる人のいらない方も使用できる

樹林墓地 一 遺骨1体 13,000円、粉状遺骨1体 43,000円

樹木墓地

合葬式墓地、直接共同埋蔵施設、1体用60,000円、2体用120,000円、
3体用 180,000円。

一定期間保管後共同埋蔵 1体 93,000円

2体 186,000円、3体用 279,000円

お彼岸やお盆には数万人の墓参御が訪れる。

◆視察日：平成27年2月20日（金）

◆視察先：愛知県小牧市

◆調査項目：新庁舎建設について

人口、153,303人、面積、62,82 km²

工業団地を造成し、企業誘致を図る。昭和40年、名神高速道路

東名高速が次々と開通、中部圏の陸上の交通要衝となる。

政府の高度経済成長政策の相乗作用によって600余社の企業が進出

内陸工業都市となる。平成8年、旧庁舎の耐震診断を実施、結果

耐震性に問題があることが判明する。平成13年頃から建設への議論始まる。

平成14年、市議会・庁舎建設検討委員会設置

平成16年、庁舎の位置について表明、小牧駅近くで検討された

17年、府内検討組織、新庁舎建設推進本部を設置、以降、

府内において議論が進められて東北、市民団体との意見交換会、

府内の各部長以下職員の意見聴取

平成20年、基本設計プロポーザル実施、21年実施設計。

平成23年、市議会選挙のため24年7月竣工となる。

鉄骨一部鉄筋コンクリート造り地上6階、地下1階、敷地面積、

1万6278平方メートル、延べ床面積、1万7050平方メートル

総工費50億9,082万円。

東西壁は自然光取り入れるために全面、断熱ガラス張り、3階以上は2枚のガラスで覆われ、ガラスとガラスの間に空気層を調節することにより夏は涼しく、冬は暖気が逃げないようににする。

建物は免震構造を採用、柱内の積層ゴムが横揺れを吸收

鉄板が縦搖れに耐える、地震の揺れをよりに減らせるものである。

地盤に強く、景観も国史跡小牧山の周辺環境に溶けこむよう

自然や景観に配慮している。

自由民主党会派（礎・絆・和）行政視察所見

委員名【前川祥子】

◆視察日：平成27年2月18日（水）

◆視察先：大阪府大東市

◆調査項目：指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

市立図書館の指定管理者導入の目的は職員の削減に沿財政の消滅と、図書館運営の専門性任せることで、民間手中ではのノウハウでこれまでにないサービスを市民に提供できることである。開館時間の延長や休館日の削減など、市民からの評判もよく貸出人數貸出冊数も増加している。

今後の課題としてはスマートフォンなどの新しい端末の普及に伴う若年層の人やめくろしい社会の情報化に対応していくことである。これまでこうしたように今後も行政と指定管理者側との緊密な連携は、尚一層深めていかなければならぬ」と答えていたところは大いに評価したい。

- ◆視察日：平成27年2月19日（木）
- ◆視察先：東京都（都立小平霊園）
- ◆調査項目：これからの墓地行政のあり方について

樹叢墓地、樹木墓地、合葬式墓地と都立霊園において、時代に沿って新しい形体が生まれてきてると新めく感じた。

お暮け　亡くなつた人の最後の居場所と
いうことではなく　死生に遺族にとつての心の
寄り所ととらえておもひでいるかと考えた。

◆視察日：平成27年2月20日（金）

◆視察先：愛知県小牧市

◆調査項目：新庁舎建設について

P41年に建設された庁舎は築40年を経過している。
新庁舎基本構想が策定され H22年に竣工した。外側が
ガラス張りで少し湾曲した美しいオルムで、目を引く外観だ。
中も致3と3に職員や市民の憩いの場が多く設けられて。
(か) 町利用度は高くないが、スマートの使い方に多少
無駄を感じる。食堂は展望を考え最上階に入れないので
客足が遠く、今年の2月で閉店ということである。屋上から取り入れる
雨水をトイレの水に利用する予定だが、鳥の糞害で水を消毒しない
といふのがいいことで、現在は使用しない。多くのことを配慮
(2) 建設されたばかりで建て、使、2年2初めて分かれ部分
が多くあると感じた。本町議会における庁舎特別
委員会を設置し、議会、職員、市民三身一体で本町に
合意する新しい新庁舎建設を望む。

自由民主党会派（礎・絆・和）行政視察所見

委員名【村川清則】

◆視察日：平成27年2月18日（水）

◆視察先：大阪府大東市

◆調査項目：指定管理者導入後の市立図書館の運営状況について

大東市には、中央・西部・東部の3図書館があり、
大手の(株)図書館流通センターが指定管理者として、一括して
運営し、職員(司書)を9名から14名に増やし市民
サービスに努めている。

指定管理導入あるいは個人情報の漏洩や無料原則
に対する不安などによる要望や意見もあった様だが、
教育委員会が責任を持って事業者を監督する旨を
伝え理解を得たとの事で、八代市でも同様の努力は
払わなければならぬと考える。

導入後は「おはなしの会」や「上映会」などの自主事業や
イベント(最近では市民サークルとの共催も)の数が増えている
ようで市民の反応も批判や苦情などはほとんど無く
概ね好評の様である。

- ◆視察日：平成27年2月19日（木）
- ◆視察先：東京都（都立小平霊園）
- ◆調査項目：これからの墓地行政のあり方について

小平霊園は、昭和23年に開園した都立の公園墓地であり、小平駅より徒歩5分と交通の便も良い。

平成24年には、死後は安らかに自然に還りたいという多くの都民の要望に応えるものとして、都立霊園では初めての樹林墓地が建設された。これは樹林の下に設けた共同埋蔵施設に、絹袋に入れた遺骨を数多く埋葬するもので、基本的に無宗教が原則であり、毎年5月4日に献花式を行なっている。

少子高齢化が進行し、人口減少社会も現実となっている。近い将来、墓地行政も避けられない問題となってきたようと考える。

管理は東京都公園協会が指定管理者として行なうが、利用料だけでは当然不足するので、都からの指定管理料で運営しているそうだ。

◆視察日：平成27年2月20日（金）

◆視察先：愛知県小牧市

◆調査項目：新庁舎建設について

新庁舎建設にあたり、市民懇談会（学識経験者2名、市民団体代表13名、公募市民5名）を8回開催し、その必要性、規模、候補地など市民の意見を基に構想に反映させていく。

ダブルスキンにより、夏期は自然換気と外部ブラインドにより効率的な断熱を行い、冬期は暖められた空気の断熱層による熱負荷低減を図っているが、思う様な効果は上がっていない様だ。

また、屋上に40kWの太陽光発電パネルを設置し自然エネルギーを利用すると共に、パネル自体により屋上面への直接日射量を抑え、外部熱負荷の低減を図っている。発電量自体は、庁舎で使用する電力の1~2パーセントにしか相当しないようである。